

インターバンクの声（2017年6月16日）

FOMC 直後に 108 円 81 銭まで下落したドル円が、昨晚 110 円 98 銭まで反発するとは驚いたというのが正直な感想。

前日の米 5 月消費者物価指数や小売売上高がさえない結果となった一方で、昨晚発表された NY 連銀製造業景況指数が 2014 年 9 月以来の高水準を記録したほか新規失業保険申請件数、さらにはフィラデルフィア連銀景況指数も予想を上回ったことで米長期金利が上昇した。

一部には FOMC を控えて債券の買いポジションが相当溜まっていた、との警戒の声も聞かれていた通り、10 年債利回りも前日の 2.11% から 2.16% へ上昇。金利上昇を嫌気した NY ダウは欧州株安の影響もあり 112 ドル安まで下落した。

それでもトランプ大統領から「GDP はとても良い数値、近く発表」との発言が聞かれたことでダウ、ナスダックともに下げ幅を縮小した。

ドル円は、200 日移動平均線 (110 円 60 銭) と基準線 (111 円 39 銭) の上下どちらへ抜けるのか、来週の動向を占う上でも注目される週末となりそうだ。

日銀政策決定会合、黒田総裁の会見も予定されているが、インパクトが薄い現状維持の予想となっているだけに、余計な発言で円高にバイアスが掛るようなことだけは避けていただきたいというのが市場参加者の声ではないだろうか・・・

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複製もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。